

2020年11月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年4月13日

上場会社名 株式会社ネクスグループ 上場取引所 東
 コード番号 6634 URL <https://ncxxgroup.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 秋山 司
 問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役副社長 (氏名) 石原 直樹 TEL 03-5766-9870
 四半期報告書提出予定日 2020年4月13日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年11月期第1四半期の連結業績（2019年12月1日～2020年2月29日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する 四半期純利益 | |
|----------------|-------|-------|------|---|------|---|----------------------|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2020年11月期第1四半期 | 2,221 | △6.3 | △79 | — | △76 | — | △91 | — |
| 2019年11月期第1四半期 | 2,369 | △40.9 | △105 | — | △154 | — | △327 | — |

(注) 包括利益 2020年11月期第1四半期 △207百万円 (—%) 2019年11月期第1四半期 △700百万円 (—%)

| | 1株当たり 四半期純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益 |
|----------------|-----------------|----------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 2020年11月期第1四半期 | △6.17 | — |
| 2019年11月期第1四半期 | △21.95 | — |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 | 1株当たり純資産 |
|----------------|-------|-------|--------|----------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 2020年11月期第1四半期 | 6,167 | 2,027 | 20.7 | 85.58 |
| 2019年11月期 | 6,685 | 2,234 | 22.3 | 100.22 |

(参考) 自己資本 2020年11月期第1四半期 1,275百万円 2019年11月期 1,493百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|----------------|--------|--------|--------|------|------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 2019年11月期 | — | 0.00 | — | 0.00 | 0.00 |
| 2020年11月期 | — | — | — | — | — |
| 2020年11月期 (予想) | — | 0.00 | — | 0.00 | 0.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2020年11月期の連結業績予想（2019年12月1日～2020年11月30日）

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属 する当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 |
|----|-------|------|------|---|------|---|---------------------|---|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 9,321 | △3.6 | 92 | — | 93 | — | 9 | — | 0.63 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

| | | | | |
|---------------------|---------------|-------------|---------------|-------------|
| ① 期末発行済株式数（自己株式を含む） | 2020年11月期 1 Q | 15,030,195株 | 2019年11月期 | 15,030,195株 |
| ② 期末自己株式数 | 2020年11月期 1 Q | 125,816株 | 2019年11月期 | 125,816株 |
| ③ 期中平均株式数（四半期累計） | 2020年11月期 1 Q | 14,904,379株 | 2019年11月期 1 Q | 14,904,379株 |

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料や記載した当期の業績予想につきましては、現時点での入手可能な情報に基づき、当社で判断したものであります。予想に内在する様々な不確定要因や今後の事業運営における内外の状況の変化等により、実際の業績と異なる場合があります。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------|----|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 5 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 5 |
| 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 | 6 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 6 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 8 |
| 四半期連結損益計算書 | |
| 第1四半期連結累計期間 | 8 |
| 四半期連結包括利益計算書 | |
| 第1四半期連結累計期間 | 9 |
| (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 10 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 10 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 10 |
| (セグメント情報等) | 10 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当第1四半期連結累計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、各種政策の効果もあり、個人消費や設備投資が上向き、景気は緩やかな回復基調となりました。一方で、米中貿易摩擦の長期化など、海外の不安定な政治動向や地政学リスクが与える影響の懸念などもあり、景気の先行きは依然不透明な状態が続きました。また、今般の新型コロナウイルスの感染拡大の影響で経済活動の停滞は避けられない状況となっております。

このような事業環境において、株式会社ネクス（以下ネクス）では、主軸商品であるLTE/3G USBデータ通信端末「UX302NC-R」に追加サービスとして、今般の新型コロナウイルス感染症対策として増加する、在宅勤務などのテレワークに対応したセキュリティ強化サービスを、株式会社CAICAテクノロジーズと共同開発を開始し、6月にはリリースを予定しております。

また、ネクスが開発を進めている「NCXX AI BOX」の実証実験を株式会社チチカカ（以下チチカカ）の店舗において開始をいたしました。チチカカ店舗に「NCXX AI BOX」を設置し、店舗及び店舗前を通過する人の行動データを分析することで、入店したお客様が店頭の何処を見て入店をしたのか、何処を見て入店をしなかったのか、また、どのディスプレイを見て商品を買ったのかなどを分析し、店舗のレイアウトやディスプレイ、商品配置、店員の動きなどに活用していくVMD（ビジュアルマーチャンダイジング）を実施していきます。

連結業績につきましては、2019年11月にLTE/3G USBデータ通信端末「UX302NC-R」が株式会社NTTドコモ（以下ドコモ）の相互接続性試験をクリアし、ドコモの取り扱い製品として同社製品サイトに掲載されるとともに全国のドコモショップ及びドコモオンラインショップにて販売されており、今までのIoT/M2M分野だけでなく、コンシューマー向けのPC/タブレットでの利用やドコモブランド利用者など、これまでよりも幅広く展開されております。また、今般の新型コロナウイルスの感染症対策として、在宅勤務などのテレワークの導入企業の増加に伴い通信端末の販売が伸長しており、売上・利益ともに大きく増加しました。

一方で新型コロナウイルスの影響により、インターネット旅行事業では、申込数の減少とキャンセルが発生し、売上が減少しております。キャンセルを行うお客様に対しては夏休み以降シルバーウィークを中心にスケジュールの延期の提案などを行い、売上の減少を最小限に留める取組みを行っております。

また、チチカカにおいては、商品の多くを中国から仕入れていたこともあり一部商品の入荷が遅れが発生し機会損失が発生しましたが、現在は仕入の遅延は解消しております。一方でショッピングモール、路面店などで客足が遠のき、売上が減少しております。

上記の結果、売上高は2,221百万円（対前期比6.3%減）となりました。それに伴い、営業損失は79百万円（前期は営業損失105百万円）、経常損失は76百万円（前期は経常損失154百万円）となりました。税金等調整前四半期純損失は42百万円（前期は税金等調整前四半期純損失308百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は91百万円（前期は親会社株主に帰属する四半期純損失327百万円）となりました。

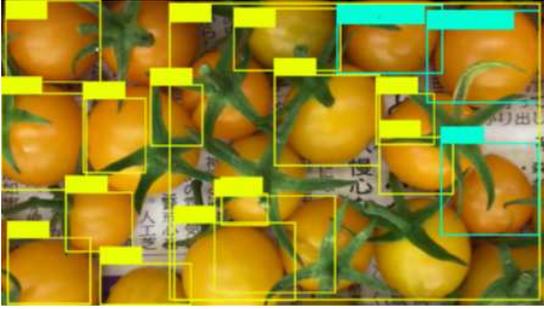
当第1四半期連結累計期間におけるセグメントごとの業績は以下のとおりであります。

(IoT関連事業)

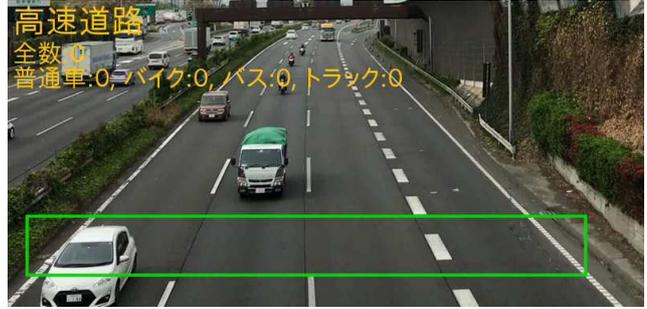
ネクスは、培ってきた自動車テレマティクスをはじめとする様々な分野に対するIoT技術をベースに「IoT×ブロックチェーン技術」、「IoT×AI技術」など、「IoT×新技術」を活用した新たなサービスの提供を目指します。

具体的には、大量のデータを判別・収集するAI学習の「目」となる画像認識分野においては、AIコンピューティングの分野で様々なプラットフォームを提供しているNVIDIA Corporationが提供するGPU（画像処理やディープラーニングに不可欠な並列演算処理を行う演算装置）を利用した、リアルタイム画像認識技術の開発を行っております。リアルタイム画像認識技術は、顔認証システムや監視カメラの映像分析などのセキュリティ分野での活用や工場ラインでの不良品検出、自動車の自動運転や運転アシストなど様々な分野に活用できる技術となります。

画像認識に関する研究開発については前期より本格的に開始しており、自社の農業ICT事業において、トマトの画像と糖度を学習させることで糖度計を使用せずに非接触でのトマトの糖度を識別する仕組みや、圃場の中に収穫期を迎えたトマトがどこにあるかの検知、最終的には自動収穫を行うロボットの開発を行う予定です。



画像認識によるトマトの選果



画像認識による交通解析

既存製品につきましては、2019年度米国国防権限法（NDAA2019）の成立により、華為技術（Huawei）や中興通訊（ZTE）、監視カメラ大手の杭州海康威視数字技術（HIKVISION）、浙江大華技術（Dahua Technology）、海能達通信（Hytera）の計5社への締め付けが大幅に強化され、2019年8月、米国政府機関による上記5社からの調達を禁ずる措置が発効されました。ネクスでは、現在販売中の全ての製品において、2019年度米国国防権限法（NDAA2019）に関わる上記5社への製造委託や上記5社からの部品の採用は行っており、安心してご使用いただけるため、上記5社の製品からの切替需要が増加しております。

また、働き方改革の推進、一般の新型コロナウイルスの感染症対策として、在宅勤務などのテレワークを導入する企業が増加しており、在宅勤務で使用するPC/タブレットからの企業ネットワークへの接続などで幅広く利用されることが予想されます。

今後の動向につきましては引き続き注視しながら、製造委託先の継続的な管理・監督とともに、信頼できる新規製造委託先の開拓を進め、国内メーカーとして市場のニーズに対応した製品群のさらなる拡充に取り組み、国内外の市場に向けて今後普及が見込まれるLPWA*1や次世代通信規格5Gなど、モバイルコンピューティングや高付加価値通信デバイスとソフトウェアの融合により自動車テレマティクスソリューションやその他の様々なソリューションの提供を行ってまいります。

*1「LPWA」とは、「Low Power Wide Area」の略で、「低消費電力で長距離の通信」ができる無線通信技術の総称。

株式会社ケア・ダイナミクスでは、介護事業者向けASPシステムの提供に加え、介護ロボットの導入支援や介護ICTの提供、その他介護事業者をサポートする様々なサービスの提供を行い「総合介護事業支援企業」として活動を行っております。

CYBERDYNE株式会社のロボットスーツHAL®、介護送迎車用のOBD IIソリューション「ドライブケア」、見守りシステム等の介護ロボット、施設内通信システムの導入支援、空調コスト・銀行振込手数料の削減サービス、クラウド人事・労務ソフトの紹介に加えて、新たにディヴオートソリューション株式会社の提供するRPA*2「アシロボ」の取り扱いを開始しました。また、株式会社ライトアップと提携し、介護事業者向けに公的支援制度（助成金・補助金）の活用を支援を行ってまいります。

*2「RPA」とは、「Robotic Process Automation」の略で、これまで人間のみが対応可能と想定されていた作業、もしくはより高度な作業を、人間に代わって実施できるルールエンジンやAI、機械学習等を含む認知技術を活用して代行・代替する取り組み。

株式会社イーフロンティア（以下イーフロンティア）は、グラフィックデザイン制作用ソフトウェアを中心にクリエイター向けのソフトウェアを各種販売しております。また、クリエイター向けに多くの周辺機器を開発するOWC社（Other World Computing, Inc.）と日本国内総代理店契約を締結しており、日本国内向けにThunderbolt 3*3製品やeGPU*4などのコンピュータ周辺機器の販売及び付帯サービスを行っております。2019年夏に取扱いを始めた新ブランドの「Akitio」を含め、従前のAmazon.comでの販売に追加して、2019年10月からYahooショッピング、また2020年1月から楽天市場で新たに直営ショップを開店して商品数630点を陳列し、収益増加に貢献し始めております。また、2020年5月にオープン予定となっているau PAYマーケット（総合通販サイト）にも出店を計画しており、EC販売を積極的に進めております。

また、自社開発ゲームのAI麻雀、AI将棋、AI囲碁を販売しており、2018年末に株式会社スクウェア・エニックスの運営する大手オンラインゲーム「ファイナルファンタジーXIV」の「ドマ式麻雀」ゲームの基幹エンジンとして「AI麻雀」プログラムの提供を行うなど、引き続き顧客獲得の拡大を目指しております。

*3「Thunderbolt3」とは、インテルとアップルが共同開発した高速汎用データ伝送技術で、USB Type-Cを使用するもの。

*4「eGPU」とは、ノートパソコンなどでも利用できる、外付けのGPUユニットのこと。

農業ICT事業（NCXX FARM）につきましては、農作物の生産、加工、販売を行う「6次産業化事業」として5色のミニトマトの栽培に加え、スーパーフードとして人気の高いGOLDEN BERRY（食用ほおずき）の専用のサイト（<https://farm.ncxx.co.jp/services/goldenberry/>）を設け、青果に加えて加工品の「GOLDEN BERRYアイス」の販売を開始し好評をいただいております。今期より圃場面積を5倍強に増加して供給量の確保を図っております。



「GOLDEN BERRY」



「GOLDEN BERRYアイス」

また、特許農法による「化学的土壌マネジメント」+ICTシステムによる「デジタル管理」のパッケージ販売を行う「フランチャイズ事業」では、野菜の生長に必要な要素と健康管理に必要な要素を複合的に組み合わせて環境管理を自動的に行う「環境管理予測システム NCXX FARM」の提供に加え、自社圃場での実績をもとに、特許農法をはじめとした儲かる農業のパッケージを提案する、総合農業コンサルタントとして新規就農者をサポートしてまいります。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は312百万円（対前期比82.3%増）、営業利益は37百万円（前期は営業損失3百万円）となりました。

（インターネット旅行事業）

イー・旅ネット・ドット・コム株式会社及びその子会社では、旅行商材が氾濫する中、多様化・高度化する消費者ニーズに対応できるサービスとして、お客様から満足度の高いコメントを多数いただいております。これは、とりわけ、株式会社ウェブトラベル（以下ウェブトラベル）において、厳選された経験豊富な「トラベルコンシェルジュ」（旅行コンサルタント）の登録を誇る、日本で唯一のインターネットによるオーダーメイド旅行会社としての体制を構築できたことに他なりません。

ウェブトラベルではコンシェルジュがLINEを使ったチャットでの無料の旅行相談を開始し、需要拡大を図っております。また、クラウドソーシング事業においては、グループ会社である株式会社フィスコからの大幅な受注増に対応できるようにクラウドコンシェルジュの増員・整備に注力いたします。さらに、株式会社ローソンエンタテインメントと業務提携を開始し、同社のチケット事業「ローソンチケット」のユーザーにウェブトラベルのオーダーメイド旅行の見積りサービスを提供します。まずは、「欧州サッカー観戦オーダーメイドツアー」と「ブロードウェイ観劇オーダーメイドツアー」の販売を行います。



今人気の欧州サッカー観戦に行くには、オーダーメイド旅行が最強



ブロードウェイでミュージカルを観るには、オーダーメイド旅行が最強

一方、株式会社グロリアツアーズ（以下グロリアツアーズ）は、障がい者スポーツの選手団派遣や国際大会関連の渡航を中心に取り扱っております。障がい者スポーツは、2021年に開催が延期になった東京オリンピック・パラリンピックに向けて関心が高まっており、今後もパラスポーツに一層力を入れてまいります。また、「フランス人

向けの訪日旅行サービス」を開始します。フランスにも特化した旅行会社(フランス旅行・留学手配)としての経験を踏まえ、今回新しい試みとして、フランス語を学んでいる現役の大学生が、自分の住んでいる地域の特色ある文化などを盛り込んだツアーを提案してまいります。

以上の結果、ウェブトラベルでは年末年始の日本人の海外旅行者数が過去最高の76.2万人となった好影響を受け、また、グロリアツアーズでは当初2020年8月に開催予定であった東京オリンピック・パラリンピックのため、各競技の選考を兼ねた国際大会や強化合宿の遠征が前倒しで増えたことにより、ほぼ前年同水準の売上を確保することができ、海外旅行事業売上が379百万円、国内旅行事業売上が55百万円となりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は434百万円(対前期比0.9%減)、営業損失は25百万円(前期は営業利益1百万円)となりました。

(ブランドリテールプラットフォーム事業)

チチカカは、2020年1月末時点で店舗事業においては91店舗体制、EC事業においては7店舗体制となっています。前期に引き続き、不採算店舗の閉店や人員体制の見直しなどによる構造改革を進めております。

販売における具体的取組みとしては、今年も地球環境を守るアースガーデンに2020年1月18日から19日で開催いたしました。これまでもアースガーデンには年3回(春夏秋)出展しておりましたが、さらに貢献できる機会を拡大する意味で「2020冬」に初参加いたしました。同取組みは「エコ」をテーマとしており、今回はサンプル品とB品(一部ほつれや汚れがある製品でレジ精算時に一人一人にご説明)のみを格安で販売させていただきました。お客様からは非常に好評で、売上構成比の約80%がB品での販売となりました。

また、本年も福袋販売を実施しました。本年はECサイトでの販売量を強化した形での取組みを行い、同ECサイトにおいて12月中に予約完売になるほどの注文をいただきました。店舗販売においても好調で推移し、最終的には1月中に全品完売することができました。店舗やECサイトのお客様の声、SNS上でも非常にお得であるとの評価をいただくことができ、既に次回に向けたプロジェクトも始動しております。

一方で、新型コロナウイルスの影響により春物商材の入荷遅れによる機会損失と顧客数の減少により売上が減少をしております。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は1,471百万円(対前期比16.6%減)、営業利益は9百万円(対前期比72.1%増)となりました。

(仮想通貨・ブロックチェーン事業)

イーフロンティアでは、引き続きAI技術を利用した暗号資産のトレーディングシステムの開発を継続してまいります。今後は、提携するフィスコ仮想通貨取引所、フィスコ仮想通貨取引所が運営を引きついでZaifの取引データを蓄積・学習することでより精緻なAI技術を利用した暗号資産のトレーディングシステムの開発を進め、暗号資産市場の動向をふまえた資金効率を意識した運用を可能とするシステムを目指してまいります。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は0百万円(前期は売上高△7百万円)、営業損失は5百万円(前期は営業損失12百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

資産の残高は、前連結会計年度末と比較して517百万円減少し、6,167百万円となりました。この主な要因は、現金及び預金が285百万円減少、商品及び製品が160百万円減少し、仕掛品が126百万円増加したものの、投資有価証券が199百万円減少したことによります。

(負債)

負債の残高は、前連結会計年度末と比較して309百万円減少し、4,140百万円となりました。この主な要因は、支払手形及び買掛金が131百万円減少、前受金が57百万円増加し、賞与引当金が31百万円減少、未払金が33百万円減少し、借入金残高(※)が153百万円減少したことによります。

(純資産)

純資産の残高は、前連結会計年度末と比較して207百万円減少し、2,027百万円となりました。この主な要因は、利益剰余金が91百万円減少し、その他有価証券評価差額金が123百万円減少したことによります。

(※) 短期借入金、1年内返済予定の長期借入金、長期借入金の合計

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2020年1月17日の「2019年11月期 決算短信」から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

| | 前連結会計年度 (2019年11月30日) | 当第1四半期連結会計期間 (2020年2月29日) |
|-------------|--------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 920,039 | 634,577 |
| 受取手形及び売掛金 | 571,891 | 530,454 |
| 商品及び製品 | 1,041,841 | 881,362 |
| 仕掛品 | 348,404 | 475,313 |
| 原材料及び貯蔵品 | 14,611 | 20,137 |
| 仮想通貨 | 26,940 | 27,861 |
| 未収入金 | 78,795 | 58,928 |
| 前渡金 | 240,154 | 311,180 |
| その他 | 121,163 | 133,651 |
| 貸倒引当金 | △6,236 | △6,913 |
| 流動資産合計 | 3,357,606 | 3,066,554 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | 590,235 | 582,372 |
| 無形固定資産 | | |
| ソフトウェア | 26,255 | 22,674 |
| のれん | 121,973 | 113,303 |
| その他 | 3,806 | 4,122 |
| 無形固定資産合計 | 152,035 | 140,101 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 1,974,716 | 1,775,044 |
| 長期未収入金 | 93,463 | 94,472 |
| 長期貸付金 | 79,280 | 79,730 |
| その他 | 593,505 | 586,803 |
| 貸倒引当金 | △155,743 | △157,202 |
| 投資その他の資産合計 | 2,585,221 | 2,378,848 |
| 固定資産合計 | 3,327,492 | 3,101,321 |
| 資産合計 | 6,685,099 | 6,167,876 |

(単位:千円)

| | 前連結会計年度 (2019年11月30日) | 当第1四半期連結会計期間 (2020年2月29日) |
|-----------------------|--------------------------|------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 629,364 | 497,415 |
| 短期借入金 | 350,000 | 320,000 |
| 1年内償還予定の転換社債型新株予約権付社債 | 200,000 | 200,000 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 901,417 | 816,546 |
| 未払金 | 133,758 | 100,009 |
| 未払費用 | 133,682 | 148,672 |
| 未払法人税等 | 60,452 | 29,551 |
| 未払消費税等 | 69,934 | 65,891 |
| 前受金 | 297,267 | 354,651 |
| 資産除去債務 | 30,226 | 35,726 |
| 賞与引当金 | 59,764 | 27,932 |
| 製品保証引当金 | 51,000 | 45,000 |
| 返品調整引当金 | 1,156 | 1,110 |
| ポイント引当金 | 4,943 | 4,879 |
| その他 | 30,519 | 30,621 |
| 流動負債合計 | 2,953,486 | 2,678,009 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 211,086 | 172,021 |
| 退職給付に係る負債 | 45,863 | 46,706 |
| 資産除去債務 | 334,823 | 326,508 |
| 繰延税金負債 | 798,378 | 810,426 |
| その他 | 106,603 | 106,688 |
| 固定負債合計 | 1,496,756 | 1,462,350 |
| 負債合計 | 4,450,243 | 4,140,360 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 10,000 | 10,000 |
| 資本剰余金 | 2,769,964 | 2,769,964 |
| 利益剰余金 | △859,921 | △951,846 |
| 自己株式 | △66,515 | △66,515 |
| 株主資本合計 | 1,853,528 | 1,761,603 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | △396,413 | △519,762 |
| 繰延ヘッジ損益 | 226 | △899 |
| 為替換算調整勘定 | 36,314 | 34,538 |
| その他の包括利益累計額合計 | △359,872 | △486,123 |
| 新株予約権 | 31,374 | 31,697 |
| 非支配株主持分 | 709,825 | 720,338 |
| 純資産合計 | 2,234,856 | 2,027,515 |
| 負債純資産合計 | 6,685,099 | 6,167,876 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自 2018年12月1日 至 2019年2月28日) | 当第1四半期連結累計期間 (自 2019年12月1日 至 2020年2月29日) |
|---------------------|--|--|
| 売上高 | 2,369,284 | 2,221,127 |
| 売上原価 | 1,300,923 | 1,165,211 |
| 売上総利益 | 1,068,360 | 1,055,915 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,173,473 | 1,134,932 |
| 営業損失(△) | △105,113 | △79,016 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 8,120 | 176 |
| 為替差益 | — | 6,729 |
| 貸倒引当金戻入額 | 8,796 | — |
| その他 | 3,268 | 9,431 |
| 営業外収益合計 | 20,185 | 16,336 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 8,618 | 5,982 |
| 為替差損 | 42,875 | — |
| その他 | 18,259 | 7,480 |
| 営業外費用合計 | 69,752 | 13,462 |
| 経常損失(△) | △154,680 | △76,143 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 106 | — |
| 投資有価証券売却益 | — | 19,496 |
| 受取和解金 | — | 15,000 |
| 特別利益合計 | 106 | 34,496 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除却損 | — | 0 |
| 投資有価証券売却損 | 134,167 | — |
| 減損損失 | 19,661 | 965 |
| 特別損失合計 | 153,828 | 965 |
| 税金等調整前四半期純損失(△) | △308,402 | △42,612 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 6,446 | 25,678 |
| 法人税等調整額 | 3,575 | 12,047 |
| 法人税等合計 | 10,021 | 37,725 |
| 四半期純損失(△) | △318,424 | △80,338 |
| 非支配株主に帰属する四半期純利益 | 8,735 | 11,586 |
| 親会社株主に帰属する四半期純損失(△) | △327,160 | △91,924 |

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自 2018年12月1日 至 2019年2月28日) | 当第1四半期連結累計期間 (自 2019年12月1日 至 2020年2月29日) |
|-----------------|--|--|
| 四半期純損失(△) | △318,424 | △80,338 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | △384,107 | △123,349 |
| 繰延ヘッジ損益 | △1,814 | △2,199 |
| 為替換算調整勘定 | 3,894 | △1,776 |
| その他の包括利益合計 | △382,028 | △127,324 |
| 四半期包括利益 | △700,452 | △207,662 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | △708,299 | △218,176 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | 7,846 | 10,513 |

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2018年12月1日至2019年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

| | 報告セグメント | | | | | | 調整額 | 四半期 連結財務諸表 計上額 |
|-----------------------|---------|-----------------|----------------------------|-------------------------|-------|-----------|---------|----------------------|
| | IoT関連事業 | インターネット 旅行事業 | ブランドリテ ールプラット フォーム事業 | 仮想通貨・ブ ロックチェー ン事業 | その他 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 171,479 | 438,490 | 1,765,139 | △7,605 | 1,781 | 2,369,284 | — | 2,369,284 |
| セグメント間の内部売上 高又は振替高 | 4,502 | 381 | 896 | — | — | 5,780 | △5,780 | — |
| 計 | 175,981 | 438,871 | 1,766,035 | △7,605 | 1,781 | 2,375,064 | △5,780 | 2,369,284 |
| セグメント利益又は損失 (△) | △3,856 | 1,740 | 5,490 | △12,478 | 1,781 | △7,322 | △97,790 | △105,113 |

(注) セグメント損益は四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っており、調整額は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

II 当第1四半期連結累計期間(自2019年12月1日至2020年2月29日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

| | 報告セグメント | | | | | | 調整額 | 四半期 連結財務諸表 計上額 |
|-----------------------|---------|-----------------|----------------------------|-------------------------|-------|-----------|---------|----------------------|
| | IoT関連事業 | インターネット 旅行事業 | ブランドリテ ールプラット フォーム事業 | 仮想通貨・ブ ロックチェー ン事業 | その他 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 312,566 | 434,483 | 1,471,618 | 920 | 1,538 | 2,221,127 | — | 2,221,127 |
| セグメント間の内部売上 高又は振替高 | 4,500 | 76 | 941 | — | — | 5,518 | △5,518 | — |
| 計 | 317,066 | 434,560 | 1,472,559 | 920 | 1,538 | 2,226,645 | △5,518 | 2,221,127 |
| セグメント利益又は損失 (△) | 37,307 | △25,180 | 9,452 | △5,383 | 678 | 16,874 | △95,891 | △79,016 |

(注) セグメント損益は四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っており、調整額は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。